

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	主 査 名：金子 尚志 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：永田 明寛
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(設置目的) ・持続可能な都市・建築の実現に寄与するパッシブ技術のデータベース化 ・住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築 ・地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の検討 (各年の活動計画) 初年度：既刊「設計のための建築環境学」(彰国社)の改訂版内容の検討 2年度：既刊「設計のための建築環境学」(彰国社)の改訂版出版に協力 3年度：「設計のための建築環境学」(彰国社)改訂版出版を宣伝するため、シンポジウムを開催 4年度：前年度に開催したシンポジウムからの続きで、テーマを絞った小規模のシンポジウムを複数開催し、バイオクライマティックデザインの普及に努める	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：金子 尚志 (滋賀県立大学) 幹事：高田 真人 (熊本大学) 委員：宇野 朋子 (武庫川女子大学), 大塚 弘樹 (旭化成建材株式会社快適空間研究所), 菊田 弘輝 (北海道大学), 源城 かほり (長崎大学), 斉藤 雅也 (札幌市立大学), 佐々木優二 (北海道立総合研究機構), 佐藤 理人 (IBEC), 菅原 正則 (宮城教育大学), 田中 稲子 (横浜国立大学), 畑中久美子 (岐阜市立女子短期大学), 長谷川 兼一 (秋田県立大学), 廣谷 純子 (みつつデザイン研究所), 中谷 岳史 (信州大学) (50 音順 敬称略)	
設置 WG (WG 名：目的)	<u>熱環境への適応検討 WG</u> (委員 15 名)：【2年度 (2020 年度) に廃止】地域に備わる自然のポテンシャルを活かす建築・都市環境デザイン (バイオクライマティックデザイン、以下 BD) を推進するためには、ヒトの中立温度、受容範囲、暑熱寒冷限界、想像温度などの季節性・地域性を解明することが必要である。また熱的快適性と熱環境適応の効果と限界を理解することは、BD 設計ツールへの活用が期待される。本 WG では、既往の学術的知見の整理、各地の実態調査により、熱環境適応の効果と限界、設計への活用を検討する。 <u>バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた WG</u> (委員 7 名 (予定))：【4年度 (2022 年度) に新設予定】	
2021 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s14/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 再考 設計のための建築環境学 (共同開催) 参加者数 54 名 (参加資料なし)
大会研究集会	なし

対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 小委員会を5回開催(第5回は2022/3に開催予定)し、幅広い情報交換と討議を行った。 2. バイオクラマティックデザイン改訂本作成小委員会と協力し、既刊「設計のための建築環境学(彰国社)」の改訂版を2021年12月に共同でシンポジウム「再考 設計のための建築環境学」をオンライン開催した。 3. 2021年度大会OS実施「人と環境とバイオクラマティックデザイン」
委員会活動の問題点・課題	1. 主査・幹事をはじめ委員が全国各地に散らばっているため委員旅費の工面が困難であったが、コロナ禍の影響でオンラインでの委員会開催が主体となったため、期せずして解決された。しかし単なる会議開催だけに終わらず、新たな開催方式により対応した形式を模索していく必要がある。 2. 既刊「設計のための建築環境学」の改訂本の出版後に開催したシンポジウムでの流れを受けて、2022年度の建築学会・大会でもOS(オーガナイズドセッション)の開催することとなったので、準備する必要がある。

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<u>小委員会の活動</u> 本バイオクライマティックデザイン小委員会の2021年度の主な活動成果は、バイオクライマティックデザイン改訂本作成小委員会と協力して出版した「設計のための建築環境学・第2版（彰国社）」のプロモート活動である。 一つは、2021年12月に改訂本作成小委員会と共同オンライン開催したシンポジウム「再考 設計のための建築環境学」の成功である。主催者側を除き計54名の参加者が確認された。 また同改訂本の出版に合わせて、2021年9月に開催された日本建築学会・大会でOS（オーガナイズドセッション）を実施した。こちらも多くの参加者に恵まれた。しかしながらOSの発表件数が3件のみだったため、次年度以降は発表者を増やす工夫について考えていきたい。 <u>委員会内WGの活動</u> 今年度はWGの活動を一旦完了させていたが、次年度以降の活動に向けて新たにWG「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた」の設立申請を行った。次年度以降、活動を頑張っていきたい。 以上のことから、本委員会の自己評価を「A」とした。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。